

王将を憂う

ふくさきかずたろう

私は今、王将で昼飯を食ってきたばかりだ。

昨日まで鹿児島で孤島生活を送っていたので、世の中の動きがよくわからないが、一体全体どうなってしまったんだ。

ソ連の政変なら知っているぞ。テレビで見たからな。しかし王将の異変は、それ以上の衝撃だ。

王将多田店のランチメニューを見て驚いた。全てが900円以上なのだ。王将とは思えない価格だ。どこを探しても「王将ランチ650円」が無い。ましてや「餃子定食400円」なんて影も形も、だ。う～ん、慢心多田店め。ならば単品攻撃で逆襲だ。まずは「炒飯」……なんと350円！この間、250円から300円に値上げしたばかりではないか。まさに噴飯ものだ。うぬぬ、肉の食いたい貧乏人の味方「肉ギヤベツ味噌炒め」はどうだ……400円！やられた。炒飯+ホイコーローで750円とは！

もはや、王将は我々でも豪遊できるチープなチャイニーズレストランでは無くなってしまったのか。

しかたなく私は「焼肉定食900円」を注文した。

焼き肉は王将の水準を越えていた。春巻きもパリっとしていてサクサクと美味しかった。鶏の空揚げも柔らかく、口のなかで溶けてしまいそうだった（これは誉めすぎか）。ご飯もたいそう美味しかった。

しかし！どんなに良い材料を使っても料理人の腕が良かろうとも、900円という料金は高すぎる、と思うぞ、王将である以上は。

王将は「価格破壊」がモットーだったはずだ。ぎりぎりの価格で、ぎりぎりに良い物を出して、集まった客の回転で稼ぐというのが、セオリーだったはずだ。500円持って行けばそれと引換に「満足と満腹」が得られたはずだ。なのに、なのに……（涙ぐむ）。

なぜだ。なぜなのだ。私なりの考えを述べてみよう。

原因：バイトが多い。それもやたら女子高生と思われる女の子が多いのだ。彼女らは2学期の午前中に見せるあの寝ぼけ眼そのままに、重い足どり 甘えた口調 髪の毛油だらけになっちゃってもういやこんなバイトでも時給いいしなあという感じをもろもろに露出しているのだ。一言でいえば「鈍重」だ。

結果と考察：オーダーを取るにしても客があれこれ迷っている間中、ずっと待っている。普通、王将なら10秒待っても決められない客は後回しにするぞ。それなのに彼女らは、だるそうにずっと待っている。そうすれば他の仕事をしないで済むからか。

そうして狭い通路に何人ものバイト娘が何をするでもなく漂っているもんだから、スピーディーな正社員が料理を運ぶのにも滞るのである。

通路を正面にみて、私は思ったね。王将は動脈硬化を起こしている、と。教育が出来ていないうえに勤労意欲が無い。こんなコレステロールのようなバイトを大勢雇ってはいは人件費が大変だろう。ランチ900円も仕方ないよね。

感想：初心を忘れ、人手不足を高いバイト代で解消しようとする。それを償わされるのが我々 王将ファンか？ いやだね。俺はもう王将には行かないぜ。バカなヤングファミリーからせいぜい吸い上げることだな。

池田には来々軒がある。600円で腹一杯だ。さよなら王将もう行かないよ。

おわり

